

第10課 修 理

1. この課のねらい

- (1) 自転車屋、電気屋などで修理を依頼することができるようにする。その際、できれば修理部分についての説明、受け取り日時の確認、正しい使い方の確認と理解、修理代の支払いなどのことができるようにする。
- (2) 相手の話がよく理解できないときに、自分の欲しい情報のみが出てくるような適切な質問をし確認していくことができるようにする。

2. 学習項目とその扱い方

〔会話－1〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	<p>○すみません。ちょっと 鍵の調子が 悪いんですが。見てくださいますか。(1)</p> <p>○どのぐらい かかりますか。(3)</p> <p>○じゃ、お願いします。5時ごろ 取りに来ます。(7)</p>	<p>○(しばらく、調子を見ていて) 取り替えたほうが いいですね。(2)</p>
重要項目	<p>○それで、おいくらですか。(5)</p>	<p>○夕方までには できますよ。(4)</p>

(2) 準備

- ①時計、カメラ、テープレコーダー、ライター、靴などを用意する。実際に壊れていて修理が必要なものがあればそれを利用するとよい。学習者に店に持って行かせて修理を頼ませる場合には、あらかじめ店の人に事情を話し、協力を求めておく。
- ②また、時計、カメラ、靴、電気製品などの修理の依頼をする場面の応用会話をテープに録音しておく。

(3) 導入

- ①本文や応用会話のテープを聞かせて、何の修理を頼んでいるか、いつできるか、いくらかかるかなど質問して学習者の予習の有無を確認する。
- ②あるいは、用意した時計やカメラを使い、それらが壊れていると仮定して、それら

の修理のため店に行くとしたら何と言って修理を頼むか、普通どのくらいの時間で直してくれるか、いくらぐらいかかるか（実際に修理に持って行ったことのある人がいれば、その人の経験を尋ねる。）などについて話し合うのもよい。その際、実物を見せながら、各部分や部品の名称や自分で修理するとき用いる道具類（〔関連表現〕参照）の名前を導入しておくといよい。

③その後、学習者をお客に見立て、教授者が店の人になって会話練習をする。学習者が時計なりカメラなりを持ち、「ごめんください」と言って教室に入ってくるところから始める。

(4) 練習

①予習が十分であれば、修理する物をいろいろかえて会話の練習をする。

②「すみません。ちょっと鍵の調子が悪いんですが、見てくださいますか」は、なめらかに言えるようになるまで練習する。

また、「鍵の調子」のところを「シャッターの調子」「ライトの具合」などに置きかえて練習する。しかし、この表現が長すぎてとても口が回らないというような学習者は、目的達成のために必要最低限の表現（例えば、ここでは「ここが悪いんですが」とか「修理お願いします」と言って、修理してほしい箇所を指でさせるようにする。）をまず習得させればよい。なかなかめらかに言えない学習者に、しつこく反復練習させて緊張させたり、自信を失わせたりすることは絶対に避けなければならない。

③「どのくらいかかりますか」は、時間とお金の場合の両方に使えることを確認しておく。〔1. 会話練習〕を使って、いろいろな状況における「かかります」の意味の使い分けを練習する。また、どちらかはっきりさせたい場合は「何時間くらいかかりますか」とか「おいくらですか」などの表現を使うことに言及する。

④「（5時ごろ）取りに来ます」は、「～へ～を～に行く／来る／帰る」の文型で練習した方がよい。〔2. 表現練習 a〕で意味と使い方を確認した後、

「北京菜館、炸醬麵、食べる」→「北京菜館へ炸醬麵を食べに行きます」

などの置きかえ練習、あるいは、

「北京菜館で炸醬麵を食べます」→「北京菜館へ炸醬麵を食べに行きます」

などの変形練習を行い、形が定着したら〔2. 表現練習 b〕を使って会話の練習をする。

また、「行きます」「来ます」については、いろいろな場面を作り〔3. 会話練習〕のような形にして使い分けを確認するとよい。

⑤「～したほうがいい」は理解項目ではあるが、覚えておくと便利な表現なので、できればここで練習しておくといよい。「薬を飲みます」→「薬を飲んだほうがいいですよ」というような形の練習の後、「頭が痛いんです」とか「この字の読み方が分かりません」などという場面を作って、「薬を飲んだほうがいいですよ」「辞書を引いたほうがいいですよ」など、自由に表現を考えさせるとよい。

また、次のような会話を作って練習させてもよい。

練習例 A：ちょっと 頭が痛いんですが……。

B：じゃ、薬を飲んだほうがいいですよ。

A：そうですか。じゃ、薬を飲みます。

余裕があれば、「薬を飲みます」のかわりに「飲んでみます」「飲むことにします」を使ってもよい。

さらに、「～ないほうがいい」も同様に練習しておくといよい。

〔会話－2〕

(1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目	○あのう、林ですが、 <u>鍵</u> できていますか。(1)	○こういうふうに、このボタンを押しながら <u>鍵</u> を入れてください。(4)
重要項目	○ちょっと やってみます。ああ、こうですね。分かりました。(5)	○できています。白い自転車ですね。(2)

(2) 準備

〔会話－1〕と同様。

(3) 導入

①〔会話－1〕と同様に行う。本文や応用会話のテープを聞かせたり、〔会話－1〕で修理に持っていった物を取りに行くという場面の設定で会話をしてみたりするとよい。

②「できていますか」「やってみます」などの表現が予習してあるか、店の人の説明が理解できるかなどチェックする。また、たとえ説明が大体分かって、一応自分でやってみて確認したほうがいいということをおいしておくといよい。なお、ロールプレーをさせてみる場合は、〔会話－2〕〔会話－3〕は同じ場面なので続けて導入ができる。

1) 練習

①「～ています」については、まず「鍵はできました」→「鍵は（今／もう）できています」などの練習で形を定着させてから、〔4. 表現練習〕を使って「～てあります」と対照させて意味を確認していく。このとき、既に学習者が「自動詞・他動詞」という概念を知っていて質問をしてくるようなら、「自動詞＋ています」「他動詞＋てあります」というように分けて説明していくのも一つの方法である。しかし、「ついています」「つけてあります」のようにうまく対になるものとはともかく、「帰っています」「書いてあります」のように対にならないものも多いので、ここではむしろ、「～ています」は完了、結果、存在、「～てあります」は準備終了の状態というように意味によって分けていった方が分かりやすいであろう。〔4. 表現練習〕で使い分けが理解できたら、「鍵はできましたか」「お金は払いましたか」と質問して、「～ています」「～てあります」のどちらかを使って答えさせるような練習が可能である。また、進行を表す「～ています」についても、学習者の理解の度合を見て説明しておくといよい。次ような応答の形式で会話練習もできる。

A：名前は書いてありますか。

B：いいえ、まだです。今、書いています。

②「ながら」については、実際に二つの動作を同時にやってみせて導入する。その後、「コーヒーを飲む、新聞を読む」→「コーヒーを飲みながら新聞を読みます」のように「ながら」を使って二つの表現を連結させる練習を行う。この時、動作主は一人であること、中心になる動作は「ながら」の後ろの方にくること、状態を表す動詞（住む、分かる、飲んでいる など）は「ながら」の前に使えないことなどを注意しておく。

③「～てみる」については、靴や洋服を買う場面などで導入してから形の練習を行う。また、余裕があれば、「靴を買う前にはいてみます」「はいてみてから靴を買います」などの表現も練習してみるとよい。

④個々の項目の練習ができたなら、全体の会話練習に戻る。店の人の説明をいろいろかえ、学習者がそれを理解できるか、実際にその指示のとおりやってみることができるか確認する。「こういうふうに」とか「こうですね」とかの表現も、実際の行動に結び付けて理解させ、併せて使用もできるようにする。

〔会話一 3〕

(1) 学習項目表

新しい学習項目は特になし。

(2) 準備

お金を用意する。

(3) 導入

〔会話一 2〕に続けて導入する。

(4) 練習

①実際にお金のやりとりをして練習するとよい。〔会話一 1〕〔会話一 2〕と続けて練習する。

②〔会話一 1〕で、店に何かの修理を頼んであった場合は、それを取りに行かせてみる。できれば店の人との会話を録音させて、後で直したり、録音した会話の説明の部分などを他の学習者に聞かせて理解できるかどうか確認したりするとよい。

〔会話一 4〕

(1) 学習項目表

区分	使 用	理 解
最重要項目	○すみません。日本語がよく分かりませんので……。 (3)	○だいじょうぶでしょう。来週の水曜日に、取りに来てください。 (6)
重要項目	○すみません。修理 お願いしたいんですが。(と、言いながらレコーダーを相手の目の前に出す。) (1)	

(2) 準備

〔会話一 1〕と同様。また、「すみません。日本語がよく分かりませんので……」の類の表現ができるような場面を少なくとも三つか四つ考え、応用会話にしてテープに録音しておく。(P.75の(4)練習の例を参照)

(3) 導入

①今までと同様に、テープを聞かせたり、ロールプレーをしてみたりしながら予習の状態を確認する。

②場面は〔会話一 1〕と同じなので、復習をしながら導入ができる。教授者は店の人になって、ゴチャゴチャと訳の分からない独り言を並べ立てる。学習者がそれにどう

対処してくるかがポイントである。

(4) 練習

①店の人の話が理解できないのに、なお相手が話し続けるような場合に「あのう、すみません」のような表現を使って相手の話を遮ることを学習させる。応用会話を使って例を示し、自分の欲しい情報が出るような質問の仕方を習得させる。その後、いろいろな場面を使ってこの方法で練習していく。

例えば

客 : この本、ありますか。(メモを見せる)

本屋の店員: ええと……〇〇著の××。さあ、見たことないなあ。ええと、発行は△△社、……ああ、ここの本は、前は置いてあったけど、今は取り引きしていないから……。

客 : あの、すみません。日本語がよく分かりませんので……。

本屋の店員: あ、そうですか。

客 : で、ありますか。

本屋の店員: いえ、申し訳ないんですが、これは置いてございません。

②「取りに来る」は〔会話-1〕で、また「～したいんですが」は第5課で学習しているが、まだ問題があるようなら戻って復習する。

3. 文型・文法に関する参考事項

(1) 動詞+補助動詞

区 分	意 味	例
ア ～ていく／くる	①動作の方向 ②変化の過程 ③時間的継続	出ていく、置いていく、持ってくる、見てくる 増えていく／くる、大きくなっていく／くる 生きていく、続けていく
イ ～てある	準備終了の状態	書いてある、つけてある、説明してある
ウ ～ている	①完了、結果、在存 ②動作の進行	できている、ついている、分かっている 書いている、読んでいる、食べている
エ ～てみる	試行の動作	着てみる、はいてみる、食べてみる

「～てある」「～ている」「～ておく」「～てしまう」については第15課参照。

(2) 行く／来る

「行く」は自分の領域から外へ向かっての移動、「来る」は反対に外から自分の領域に向かつての移動を表す。できれば中国語の「去／来」と対照させて説明する。